

科目名	建築計画Ⅴ						
科目名(英)	Architectural planning and designⅤ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	板野 純		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所で建築デザインに従事		
対象学科・学年	建築工学科 3年						
授業概要	建築計画の知識をより広範な都市計画やまちづくりに展開する。社会が変化する中、身近な地域や都市の担う役割は多様である。そのため、過去・現在・未来それぞれどのような都市計画やまちづくりが実施されてきたか、あるいは実施される可能性があるか、各自で思考を深める必要がある。例えば、地域や都市の歴史を振り返り、それらが現代社会にどのように展開できるかを考察することが望ましい。主に都市デザイン、まちづくり、都市計画制度、都市・都市計画史について学ぶ。まちを歩く人の視線で都市計画を考えられるように各地の豊富な事例を紹介する。以上の概説に加え課題を行う。						
授業形態	講義：○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				都市計画とは何かを説明できる	
	○	○				既存の都市計画を調査・研究できる	
	○	○				これからの社会情勢に応じた都市計画を立てることができる	
テキスト・教材 参考図書	みんなの都市計画 理工図書 ・ 参考図書：建築ガイダンス初めて建築を学人のために、コンパクト建築設計資料集成、「新建築」等の建築雑誌、プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 建築と都市のデザイン					
	2	第2章 地域・地区のデザイン				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	第3章 風景のデザイン				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	第4章 まちづくりと市民参加				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	第5章 景観まちづくり				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	第6章 地域資源を活かしたまちづくり				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	第7章 防災まちづくり				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	8	第8章 交通と福祉のまちづくり				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	第9章 都市計画法とマスタープラン				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	第10章 土地利用計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	第11章 都市施設の計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	第12章 市街地開発事業				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	第13章 歴史の都市、都市の歴史				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	14	第14章 近代都市計画思潮				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	15	第15章 都市計画の歩み				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 期末試験に向けて復習をする	
評価方法	講義中の課題講評プレゼンテーション、レポート提出、期末試験の結果等により総合的に評価する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト	○	◎				10%
	宿題・レポート	○	◎				10%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築構造力学Ⅲ									
科目名(英)	Building Structural Mechanics Ⅲ									
単位数	2単位			時間数	30時間		担当者	古賀 俊光		
実施年度	2023年度			実施時期	前期		担当者実務経験	設計事務所にて 建築デザインに従事		
対象学科・学年	建築工学科 3年									
授業概要	建築構造物が荷重などに対してどのように変形し、構造物にどのような応力が発生するのかを計算できるように基礎知識の習得を目的とする。構造力学Ⅲでは、不静定構造を対象として、応力度・ひずみ度の算定、材料の性質、許容応力度設計の考え方、断面の性質などについて学び、不静定梁のたわみと断面力算定、たわみ角法および固定法による不静定骨組の断面力算定法などについて学ぶ。									
授業形態	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標				
	○	○				断面一次モーメント・図心を算出することができる。				
	○	○				断面二次モーメント・断面係数を算出することができる。				
	○	○				応力度を算出することが出来る。				
	○	○				座屈についての算出することが出来る。				
	○	○				梁の変形についての算出することが出来る。				
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 図説 やさしい構造力学									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	断面の性質(1)断面一次モーメント・図心								
	2	断面の性質(2)断面二次モーメント・断面係数					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	応力度(1)軸応力度					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	応力度(2)曲げ応力度					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	応力度(3)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	座屈・確認試験					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	7	梁の変形					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	8	不静定構造とは、剛比の計算					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	9	固定モーメント法(1)材端モーメント・分割モーメント					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	10	確認試験(1)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	11	多層ラーメンの応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	12	弾性と塑性					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	13	全塑性モーメント、崩壊荷重					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	14	不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	15	力学Ⅲの総まとめ					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを実施する。 (3)宿題を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○	◎				60%			
	小テスト	○	◎				20%			
	宿題・レポート	○	◎				20%			
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない									

科目名	建築施工Ⅲ									
科目名(英)										
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者	吉村 尚	
実施年度	2023年度			実施時期	前期			担当者実務経験	建設会社で 施工管理業務に従事	
対象学科・学年	建築工学科 3年									
授業概要	建築物・土工・地業工事・コンクリート・型枠等の、積算の基礎知識を学習し、各項目の数量演習を通して正しく数量を導き出せる力を育成する。									
授業形態	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○					積算の概要を説明することができる。				
		○				土工・地業工事の積算により、正しい数量を拾うことができる。				
		○				コンクリートの積算により、正しい数量を拾うことができる。				
		○				型枠の積算により、正しい数量を拾うことができる。				
		○				鉄筋の積算により、正しい数量を拾うことができる。				
テキスト・教材 参考図書	初めての建築積算 学芸出版社									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	積算の概要 積算の種類・工事費の構成・積算方式・数量の計算					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	2	土工の数量・演習 基礎知識を学ぶ・積算の区分と秩序・設計例・演習					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	地業の数量・演習 基礎知識を学ぶ・設計例・演習					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	鉄筋コンクリート造の積算 基礎知識を学ぶ・積算の区分と秩序					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	コンクリートの数量演習① コンクリートの数量演習基礎・基礎梁・柱					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	コンクリートの数量演習② コンクリートの数量演習梁・床版・階段					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	7	コンクリートの数量演習③ コンクリートの数量演習設計例を基に演算					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	8	確認テスト 今までの知識の理解度を確認 土工・地業工事					今までの内容を復習しておく			
	9	型枠の数量演習① 型枠の数量演習基礎・基礎梁					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	10	型枠の数量演習② 型枠の数量演習柱・床・梁・階段					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	11	型枠の数量演習③ 型枠の数量演習設計例を基に演算					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	12	鉄筋の数量の積算演習① 基礎知識を学ぶ・設計例・演習					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	13	鉄筋の数量の積算演習② 鉄筋の数量演習 基礎・基礎梁・柱・床					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	14	確認テスト 今までの知識の理解度を確認 コンクリート・型枠					今までの内容を復習しておく			
	15	まとめと試験ガイダンス					今までの内容を復習しておく			
評価方法	(1)授業の中で確認テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○	◎				90%			
	小テスト	○	◎				10%			
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない									

科目名	3DCAD II										
科目名(英)											
単位数	4単位			時間数	60時間			担当者	道脇 力		
実施年度	2023年度			実施時期	前期			担当者実務経験	建築設計会社にて設計担当		
対象学科・学年	建築工学科 3年										
授業概要	・企画設計から基本、実施設計への流れ・モデル作成、モデルから実施設計図面を作成 ・チームワーク作業										
授業形態	講義:			演習:	○		実習:	実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
		○				基本設計、実施設計の概要と環境設定ができる。					
		○				企画設計モデルから基本設計モデルへの移行作業ができる。					
		○				基本設計モデルから実施設計モデルへの移行作業ができる。					
		○				実施設計図面の詳細図の作成ができる。					
		○				自身で思い描いた形、空間をARCHUCADを使って表現できる。					
テキスト・教材 参考図書	ARCHICAD 22ではじめる BIM設計入門 [基本・実施設計編]										
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示			
	1 2	前期の復習、教材モデルの入力						テキストを見て予習を行うこと			
	3 4	教材モデルの入力						前回の復習を行うこと			
	5 6	教材モデルの入力						前回の復習を行うこと			
	7 8	教材モデルの入力						前回の復習を行うこと			
	9 10	教材モデルの入力						前回の復習を行うこと			
	11 12	教材モデルの入力						前回の復習を行うこと			
	13 14	課題制作への準備						情報、資料収集を行うこと			
	15 16	課題: 店舗付住						情報、資料収集を行うこと			
	17 18	課題: 店舗付住						タイムスケジュールの確認を行うこと			
	19 20	課題: 店舗付住						タイムスケジュールの確認を行うこと			
	21 22	課題: 店舗付住						タイムスケジュールの確認を行うこと			
	23 24	課題: 店舗付住						タイムスケジュールの確認を行うこと			
	25 26	課題: 店舗付住						タイムスケジュールの確認を行うこと			
	27 28	課題: 店舗付住						タイムスケジュールの確認を行うこと			
	29 30	課題: 店舗付住						必要提出資料の確認を行うこと			
	評価方法	(1)2つの課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・表現力を評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他
提出期限				○							20%
課題提出				◎							40%
課題評価				◎							40%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない										

科目名	Photoshop・Illustrator Ⅲ						
科目名(英)	Photoshop Illustrator 3						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	原 将史
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科 3年						
授業概要	IllustratorとPhotoshopの基本操作を踏まえ、建築パースの作成やレイアウトデザインの基本を学ぶ 主に例題に取り組むことにより、基本となるベーシックなデザインの手法を身につける						
授業形態	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				Illustratorの基本機能を踏まえたレイアウト処理ができる	
		○				Photoshopによる建築CGパースの補正とグラフィックの加工ができる	
		○				Photoshop - Illustrator のデータ特性を理解したイメージボードのレイアウトが作成できる	
テキスト・教材 参考図書	情報リテラシー Office2016						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	IllustratorとPhotoshop を連携したワーク(復習課題への取組み)				Illustrator , Photoshop のインストール	
	2	Photoshop によるパース作成 レイヤー各種機能				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	3	Photoshop によるパース作成 フィルター、パターン、他				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	4	Photoshopによる施設建築のパース(内観)作成				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	5	Photoshopによる施設建築のパース(外観)作成				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	6	施設建築のパース(外観)作成～ 線画風加工パース作成				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	7	建築施設のパース(線画風加工)の作成				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	8	Illustrator を用いたレイアウトの基本デザイン 練習①				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	9	Illustrator を用いたレイアウトの基本デザイン 練習②				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	10	有名建築をテーマとしたレイアウトボードのデザイン①				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	11	有名建築をテーマとしたレイアウトボードのデザイン①～②				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	12	有名建築をテーマとしたレイアウトボードのデザイン②				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	13	建築イメージボードの練習作品 ～基本レイアウト～				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	14	建築イメージボードの練習作品 ～配置写真加工～				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
15	建築イメージボードの練習作品 ～タイトル・テキスト処理～						
評価方法	各テーマ作成課題を評価対象成果物として評価:7種実施、その提出により評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	各テーマ課題		◎				80%
	宿題		○				20%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築士対策Ⅰ（製図）										
科目名（英）	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING										
単位数	4単位			時間数		60時間		担当者		中島 潤	
実施年度	2023年度			実施時期		前期		担当者実務経験		設計事務所にて 建築デザインに従事	
対象学科・学年	建築工学科 3年										
授業概要	チャレンジ課題への取り組みを通して、2級建築士2次対策レベルに関する木造建築構造の基礎知識の浸透から応用力までの育成を図る。										
授業形態	講義：			演習： ○		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 （到達目標）	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
		○				方眼紙を読む力がある（㎡計算や畳数）が瞬時計算ができる。					
		○				木造建築の課題の特徴、出題傾向が説明できる。					
		○				各構造の矩計図、断面図の理解し、各部の名称が答えられる。					
		○				建築士2次試験問題を限られた時間で描ける					
テキスト・教材 参考図書	総合資格 2級建築士 設計製図 テキスト										
	1	各種図面について断面図について							前回学習したことを復習する		
	2	共通項目 設計製図試験の概要 試験の制度 特徴とポイント							前回学習したことを復習する		
	3	共通項目 設計製図試験の概要 不合格の図面とは							自己採点表を配布事前に確認させ、減点項目を知っておく。		
	4	共通項目 設計製図試験の概要 受験の心得え 出題傾向							試験当時配布プリントを配布確認		
	5	共通項目 設計製図試験の概要 近年の出題傾向							高齢者に向けた対応を調べさせる。		
	6	共通項目 製図を始める前に 製図用具、用紙のセットのしかた							テキストを忘れないように		
	7	共通項目 製図を始める前に（ビデオ）様々な表現							表現方法テキストで確認		
	8	線の種類と用途、製図記号 方眼紙で練習							表現方法テキストで確認		
	9	外構、植栽等の表現 方眼紙で練習							表現方法テキストで確認		
	10	家具・設備機器等の表現 方眼紙で練習							表現方法テキストで確認		
	11	設計製図試験における関連法規							建築基準法令集持参確認		
	12	木造 木造専用住宅 構造計画 配置計画と外部動線									
	13	木造 木造専用住宅 平面計画									
	14	木造 木造専用住宅 課題文の読み取り、							色鉛筆 蛍光ペン準備		
	15	木造 木造専用住宅 ケーススタディ エスキスの進め方							前回学習したことを復習する		
	16	木造 木造併用住宅 構造計画 配置計画と外部動線							前回学習したことを復習する		
	17	木造 木造併用住宅 平面計画							前回学習したことを復習する		
	18	木造 木造併用住宅課題文の読み取り、							前回学習したことを復習する		
	19	木造 木造併用住宅 ケーススタディ エスキスの進め方							前回学習したことを復習する		
	20	木造 要求図面 要求図面の描き方							テキスト熟読する		
	21	木造 要求図面 1階平面図兼配置図と2階平面図							テキスト巻末にある答案例確認し表現補法確認する		
	22	木造 要求図面 立面図							テキスト巻末にある答案例確認し表現補法確認する		

	23	木造 要求図面 断面図	テキスト巻末にある答案例確認し表現補法確認する				
	24	木造 要求図面 2階床伏せ図兼1階小屋伏せ図	テキスト巻末にある答案例確認し表現補法確認する				
	25	木造 要求図面 部分詳細図	テキスト巻末にある答案例確認し表現補法確認する				
	26	チャレンジ課題① 課題読み合わせ ポイントライン引き	テキスト巻末課題準備				
	27	チャレンジ課題① 作図演習	テキスト巻末課題準備				
	28	チャレンジ課題① 作図演習	テキスト巻末課題準備				
	29	チャレンジ課題① 作図演習	テキスト巻末課題準備				
	30	チャレンジ課題解説 情報共有	解説復習				
評価方法	(1)課題の提出 (2)課題の発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	練習課題		◎				30%
	チャレンジ課題①		◎				70%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	専攻ゼミ(住宅) I (必修選択)				
科目名(英)					
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	板野 純
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所で建築デザインに従事
対象学科・学年	建築工学科 3年				
授業概要	各年代の代表的な建築物の分析・考察を通して、自分なりの住宅設計プロセスを組み立て、プレゼンテーションできる力を養う。※パワーポイントを用いる				
授業形態	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他
		○			目標
		○			調査を元に問題点、課題点を把握し説明できる
		○			計画立案からの設計プロセスの流れまで一通り説明できる
		○			各年代の建築物の特徴、課題点を分析することができる
		○			組み立てた住宅建築設計のプレゼンテーションができる
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント				
	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	自己紹介、オリエンテーション「デザインを考える」			
	2	課題1ー①【スクラップブックをつくる】美しい(好きな)建築を集める			
	3	課題1ー②【スクラップブックをつくる】美しい(好きな)建築を考える			
	4	発表と講評、ディスカッション「建築美に関する考察」			
	5・6	課題1の作り直し			
	7	再分析・再評価			
	8	再分析・再評価、次課題の説明			
	9	課題2 デザインの基本とは			
	10	発表と講評、ディスカッション「デザインの基本」			
	11・12	課題2の作り直し			
	13	再分析・再評価			
	14	再分析・再評価、次課題の説明			
	15	課題3 有名建築(戸建て住宅)に学び、考える 1960年代の日本の代表的な住宅に関する分析と考察			
	16	発表と講評、ディスカッション「建築の評価」			
	17・18	課題3の作り直し			
	19	再分析・再評価			
	20	再分析・再評価、次課題の説明			

授業計画	21	課題4 有名建築(戸建て住宅)に学び、考える 1970年代の日本の代表的な住宅に関する分析と考察		前回授業内容の復習と、未完の作業がある場合は次回までに作業を終えておくこと			
	22	発表と講評、ディスカッション「建築デザインを学ぶ(建築設計の進め方)Ⅰ」					
	23・24	課題4の作り直し					
	25	再分析・再評価					
	26	再分析・再評価、次課題の説明					
	27・28	課題5 有名建築(戸建て住宅)に学び、考える 1980年代の日本の代表的な住宅に関する分析と考察					
	29	発表と講評、ディスカッション「建築デザインを学ぶ(建築設計の進め方)Ⅱ」					
	30・31	課題5の作り直し					
	32	再分析・再評価					
	33	再分析・再評価、次課題の説明					
	34	課題6 有名建築(戸建て住宅)に学び、考える 1990年代の日本の代表的な住宅に関する分析と考察					
	35	発表と講評、ディスカッション「建築デザインを学ぶ(建築設計の進め方)Ⅲ」					
	36・37	課題6の作り直し					
	38	再分析・再評価 次課題の説明					
	39	課題7 有名建築(戸建て住宅)に学び、考える 2000年代の日本の代表的な住宅に関する分析と考察					
	40	発表と講評、ディスカッション「建築デザインを学ぶ(建築設計の進め方)Ⅳ」					
41・42	課題6の作り直し						
43	再分析・再評価、次課題の説明						
44	課題7 建築設計の進め方						
45	発表と講評						
評価方法	出席率及び提出作品(期限、完成度)に加え、ディスカッション時の積極性(発言回数、意見内容の整合性)により評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出作品		○				80%
	発表・ディスカッション		○				20%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	専攻ゼミ(都市) I (必修選択)					
科目名(英)						
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	板野 純	
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所で 建築デザインに従事	
対象学科・学年	建築工学科 3年					
授業概要	模型を用い、実務に近い建築工事を体験し、工事足場計画、掘削計画、躯体工事、内装工事、タイル割付図、足場図などの図面作成を行い、現場実務とほぼ同内容の作業を行う。					
授業形態	講義： △	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
		○	○			現場の実務に沿った各計画（工事足場、掘削、躯体工事、内装工事）を立てることが出来る
		○	○			施工図 実務作業の基礎事項を施工図として実際に作図できる
		○	○			模型を作成し、実務に沿った一連の手順を踏むことができる
テキスト・教材 参考図書	施工図入門書籍もしくは講師オリジナル資料					
	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	自己紹介レクレーション 自己及び友人の紹介を行う				
	2	建築施工、実務全般の話（業界のしくみ）、質疑応答				
	3	技能確認テスト 木造トレースの作図（2室） ※現時点での修得度確認			授業内で終えられなかった作業は次回 までに終えておくこと	
	4					
	5	実務における建設業界の一般常識（木造、RC造）の話				
	6	木造設計につきプラン作成、自由設計			授業内で終えられなかった作業は次回 までに終えておくこと	
	7	CAD練習（便所）			授業内で終えられなかった作業は次回 までに終えておくこと	
	8	実務における建設業界の一般常識（積算の仕組み）の話、 積算練習				
	9	木造設計につきプラン作成、自由設計			授業内で終えられなかった作業は次回 までに終えておくこと	
	10	CAD練習（1室）			授業内で終えられなかった作業は次回 までに終えておくこと	
	11	建物（鉄骨）の模型製作			授業内で終えられなかった作業は次回 までに終えておくこと	
	12	実務における建設業界の一般常識の話				
	13	木造設計につきプラン作成、自由設計			授業内で終えられなかった作業は次回 までに終えておくこと	
	14	CAD練習（2室）			授業内で終えられなかった作業は次回 までに終えておくこと	
	15	建物（鉄骨）の模型製作			授業内で終えられなかった作業は次回 までに終えておくこと	
	16	実務における建設業界の一般常識の話				
17	木造設計につきプラン作成、自由設計			授業内で終えられなかった作業は次回 までに終えておくこと		

授業計画	18	CAD練習(3室)	授業内で終わられなかった作業は次回までに終わておくこと				
	19	建物(鉄骨)の模型製作	授業内で終わられなかった作業は次回までに終わておくこと				
	20	実務における建設業界の一般常識の話					
	21	木造設計につきプラン作成、自由設計	授業内で終わられなかった作業は次回までに終わておくこと				
	22	CAD練習(4室)	授業内で終わられなかった作業は次回までに終わておくこと				
	23	建物(鉄骨)の模型制作	授業内で終わられなかった作業は次回までに終わておくこと				
	24	実務練習 平面割り付け、建物(鉄骨)模型制作	授業内で終わられなかった作業は次回までに終わておくこと				
	25						
	26						
	27	実務練習 立面割り付け、建物(鉄骨)模型制作	授業内で終わられなかった作業は次回までに終わておくこと				
	28						
	29						
	30	実務練習 立面割り付け、建物(木造)模型制作	授業内で終わられなかった作業は次回までに終わておくこと				
	31						
	32						
	33	仮設計画図(平面)作成、建物(木造)模型制作	授業内で終わられなかった作業は次回までに終わておくこと				
	34						
	35	仮設計画図(立面)作成、建物(木造)模型制作	授業内で終わられなかった作業は次回までに終わておくこと				
	36						
	37	仮設計画図(立面)作成、建物(鉄骨)模型制作	授業内で終わられなかった作業は次回までに終わておくこと				
	38						
	39	建築施工、鉄筋加工図の作図 検討時のポイント説明 建築施工、鉄筋計画図(平面)の作図	授業内で終わられなかった作業は次回までに終わておくこと				
	40						
	41	建築施工、CAD鉄筋加工図(平面)の作図	授業内で終わられなかった作業は次回までに終わておくこと				
	42						
	43	CAD(矩計図)の作図 木造設計	授業内で終わられなかった作業は次回までに終わておくこと				
	44						
	45	今期授業のまとめ、復習					
評価方法	提出された授業ノートの内容、施工図(CAD)・模型の完成度により評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業ノート		○	○			10%
	模型の完成度		○	○			30%
	施工図の完成度		○	○			60%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	専攻ゼミ(施工) I (必修選択)									
科目名(英)	Building Construction									
単位数	6単位			時間数	90時間		担当者	吉村 尚		
実施年度	2023年度			実施時期	前期		担当者実務経験	建設会社で 施工管理業務に従事		
対象学科・学年	建築工学科 3年									
授業概要	建築施工管理の基礎知識を学習し、施工図(仮設足場計画図・コンクリート寸法図・仕上図)の読み取りを行っていく。また、コンクリートの品質管理・品質検査についても学習するとともに、工程管理、安全管理・環境管理に基づいた工程表の作成まで取り組んでいく。									
授業形態	講義: △		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標				
	○					施工管理(施工図・工程管理・品質・安全・環境管理)の重要事項、注意事項を説明できる。				
		○				施工図を読むことができ、簡単な施工図が作成できる。				
		○				工程管理に基づいた、簡単な工程表が作成できる。				
		○				コンクリートの品質管理・品質検査について説明できる。				
		○				安全・環境管理に基づいた施工計画を立てることができる。				
テキスト・教材 参考図書	配布プリント									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1 2 3	施工図① 施工図の概要・仮設計画図について解説する					プリントの復習をする			
	4 5 6	施工図② 足場計画図 平面図・立面図・詳細図について解説する					プリントの復習をする			
	7 8 9	施工図③ 足場計画図のトレースの作成					トレース図を提出する			
	10 11 12	施工図④ コンクリート寸法図について解説する 書き込み内容					プリントの復習をする			
	13 14 15	施工図⑤ コンクリート寸法図 平面図・断面図 注意事項					プリントの復習をする			
	16 17 18	施工図⑥ コンクリート寸法図のトレースの作成					トレース図を提出する			
	19 20 21	施工図⑦ 仕上図について解説する					プリントの復習をする			
	22 23 24	施工図⑧ タイル割図について解説する					プリントの復習をする			
	25 26 27	施工図⑧ タイル割図のトレースを作成する					トレース図を提出する			
	28 29 30	コンクリートの品質管理・調合計画を解説する					プリントの復習をする			
	31 32 33	工程管理 ネットワーク工程表・歩掛りについて解説する					プリントの復習をする			

	34	工程管理 簡単な工程表を作成する	工程表を提出する				
	35						
	36						
	37	作業所の見学 作業所の施工管理の仕事を理解する	工程表を提出する				
	38						
39							
40	コンクリートの強度試験・品質検査を理解する	プリントの復習をする					
41							
42							
43	安全管理・環境管理について理解する	プリントの復習をする					
44							
45							
評価方法	(1)授業の中で提出物(施工図・工程表)を数回実施する。(2)宿題の提出内容以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作品提出		◎				80%
	宿題、レポート	○	○				20%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	卒業制作 I				
科目名(英)	Architectural Diploma design of Housing and Urban Planning majors				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	板野純
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所で建築デザインに従事
対象学科・学年	建築工学科 3年				
授業概要	専攻ゼミⅡで選択した専門知識を活かして本講義・演習は、今まで学んできた建築学・計画学の積み重ねの集大成として位置付けている。社会問題や環境問題、身の回りの課題など、テーマを自由に設定し、それを「建築」という手段で解決に向かう一連の作業である。また指導に際しては、その一連の作業が社会で仕事を遂行する訓練として位置付けており、基本的な作業(準備、段取り、調査、説明など)から評価の対象とする。また、自分の意思表現でもあるプレゼンテーションにおいては、厳しく指導を進めることとする。人に伝えるとは何か、また、建築が解決できることとは何か、常に物事の本質に向かう姿勢を大切に指導を行うものとする。				
授業形態	講義：△	演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○				目標
					対象敷地を定め、周囲環境、コンテキスト等を調査しまとめることができる。
		○			建築計画を立案し、具体的な設計内容を、ダイアグラムや図面、模型を作成しまとめることができる。
		○			客観的・多角的な目線で計画内容を再検討し、ブラッシュアップすることができる。
		○			計画案について魅力的に発表することができる。
学習目標 (到達目標)		○			他者の作品に対し、的確にアドバイスすることができる。
テキスト・教材 参考図書	テキスト：なし、参考図書：建築設計資料集成、新建築および各種建築書籍資料等				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1 2	ガイダンス：卒業制作の概要と前期作業内容の解説			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。
	3 4	エスキス：テーマ設定(調査資料、作業資料、敷地図面等による確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。
	5 6	エスキス：コンセプト設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。
	7 8	エスキス：計画案の概要設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。
	9 10	発表：取り組む課題とその計画案について発表(PC+プロジェクター／1人5分程度)			講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。
	11 12	エスキス：計画案設計作業(全体設定、詳細設計等具体的な内容確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。
	13 14	エスキス：計画案設計作業(全体設定、詳細設計等具体的な内容確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。
	15 16	エスキス：計画案設計作業(全体設定、詳細設計等具体的な内容確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。
	17 18	発表：計画内容の詳細発表(PC+プロジェクター／1人5分程度)			講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。
	19 20	エスキス：プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。
	21 22	エスキス：プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。
	23 24	エスキス：プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。
	25 26	発表：最終発表(PC+プロジェクター／1人5分程度)			講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。
	27 28	最終成果手直し			講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。
	29 30	最終成果手直し+最終提出			講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。

評価方法	課題作品、エスキスチェック、プレゼンテーションを下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	評価割合
	課題作品	○	◎			80%
	エスキスチェック	○	○			10%
	プレゼンテーション	○	○			10%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない					

科目名	就職実務ⅡA											
科目名(英)	Employment practicesⅡA											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		各クラス担任			
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	建築工学科 3年											
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 就職活動における作品集作成や履歴書記入方法など、社会人になる上でのスキルを身につける。											
授業形態	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				就職活動における企業研究が行うことができる						
	○	○				自己分析を行うことができる						
	○	○				作品集を作成し就職活動ができる						
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	履歴書の書き方					就職ガイドブックを熟読しておくこと					
	2	受験企業の研究し求人を探しリストアップ					就職ガイドブックを熟読しておくこと					
	3	自己分析作成と作品集ブラッシュアップ					就職ガイドブックを熟読しておくこと					
	4	志望理由チェックと作品集ブラッシュアップ					就職ガイドブックを熟読しておくこと					
	5	就職活動スケジュールを制作					就職ガイドブックを熟読しておくこと					
	6	就職活動状況の共有					就職ガイドブックを熟読しておくこと					
	7	ポートフォリオのブラッシュアップ					就職ガイドブックを熟読しておくこと					
	8	対象企業を意識した面接練習					就職ガイドブックを熟読しておくこと					
	9	対象企業を意識した面接練習(グループディスカッション)					就職ガイドブックを熟読しておくこと					
	10	受験企業の研究し求人を探しリストアップ					就職ガイドブックを熟読しておくこと					
	11	自己分析や志望理由チェック					就職ガイドブックを熟読しておくこと					
	12	就職活動状況の共有					就職ガイドブックを熟読しておくこと					
	13	求人情報の集め方や、管理の仕方					就職ガイドブックを熟読しておくこと					
	14	対象企業を意識した面接練習					就職ガイドブックを熟読しておくこと					
	15	就職活動スケジュールを制作					就職ガイドブックを熟読しておくこと					
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。											
			言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	受講態度・意欲		○		○							30%
	課題の提出		○		○							70%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない											

科目名	数学ゼミⅢA(選択)										
科目名(英)											
単位数	1単位		時間数		15時間		担当者		吉田 麻美		
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験				
対象学科・学年	建築工学科 3年										
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す										
授業形態	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				文字と式を応用した関係式が解ける					
	○	○				1次方程式を応用した関係式が解ける					
	○	○				比例と反比例の応用問題が解ける					
	○	○				平面図形の応用問題が解ける					
	○	○				空間図形・立体の応用問題が解ける					
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	【応用問題演習】 正の数と負の数					解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。				
	2	【応用問題演習】 文字と式 加法と減法、乗法と除法 関係式									
	3	【応用問題演習】 1次方程式 係数に小数・分数を含む方程式									
	4	【応用問題演習】 1次方程式 関係式(容量、過不足、速さに関する式)									
	5	【応用問題演習】 比例と反比例									
	6	【応用問題演習】 平面図形 作図、扇形の計量、面積計算									
	7	【応用問題演習】 空間図形 体積・表面積・回転体の体積									
	8	【応用問題演習】 立体の切断と体積									
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	受講態度・意欲	○	○				30%				
	課題の提出	○	○				70%				
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない										

科目名	BIM 専攻ⅢA(選択)							
科目名(英)	Building Information Modeling ⅢA							
単位数	1単位		時間数		15時間	担当者	道脇 力	
実施年度	2023年度		実施時期		前期	担当者実務経験	建築設計会社にて設計担当	
対象学科・学年	建築工学科 3年							
授業概要	ARCHICADのチームワーク機能の操作を学習し、実践的な現技術を用いて課題制作に取り組む。							
授業形態	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
		○				チームワーク機能を効果的に活用してモデリングを行うことができる。		
		○				課題に必要な情報収集を行うことができる。		
		○				ゾーンツールを使ってボリュームスタディができる。		
テキスト・教材 参考図書	木造住宅入力ガイド(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	チームワークの概要、モデル入力「木造軸組①」				テキストを見て予習を行うこと		
	2	モデル入力「木造軸組②」データチェック				前回の復習を行うこと		
	3	課題:複合ビル「情報収集」				情報、資料収集を行うこと		
	4	課題:複合ビル「エスキス①」				情報、資料収集を行うこと		
	5	課題:複合ビル「エスキス②」				情報、資料収集を行うこと		
	6	課題:複合ビル「エスキス③」				情報、資料収集を行うこと		
	7	課題:複合ビル「制作①」				情報、資料収集を行うこと		
	8	課題:複合ビル「制作②」				情報、資料収集を行うこと		
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法	(1)作品の発表 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品			◎				50%
	課題提出			◎				50%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない							